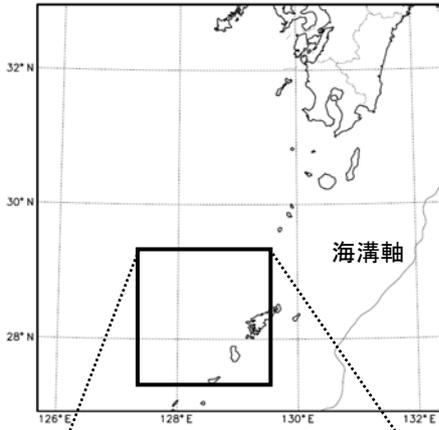
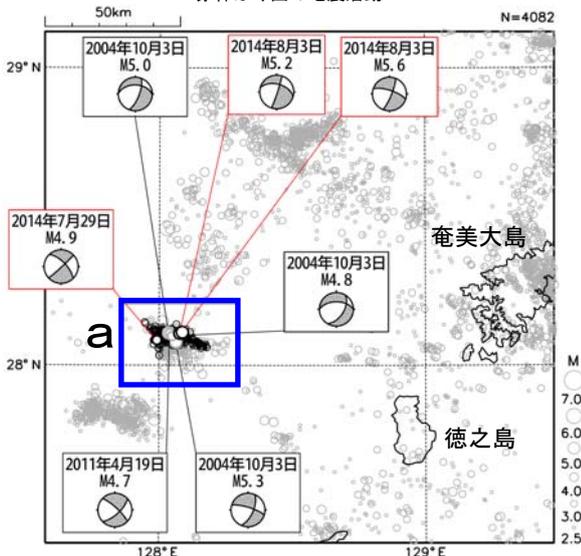


7月26日からの奄美大島北西沖の地震活動 (奄美大島の西約100kmの地震活動)

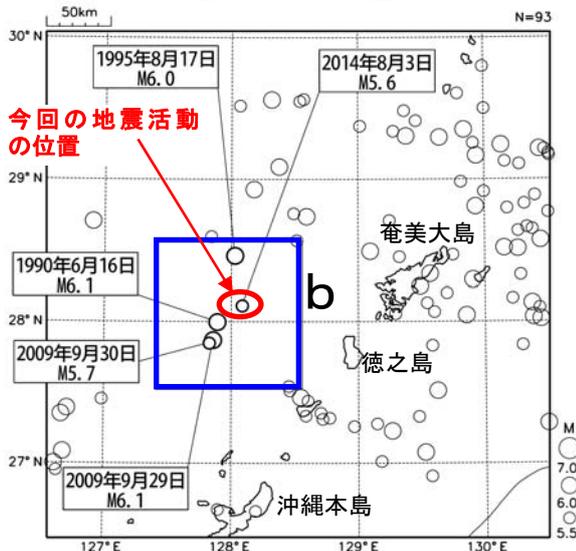


震央分布図
(1994年10月1日～2014年8月4日
深さ0～40km、 $M \geq 2.5$)

2014年7月の地震を濃く表示
図中の発震機構はCMT解
赤枠は今回の地震活動



震央分布図
(1923年1月1日～2014年8月4日、
深さ0～80km、 $M \geq 5.5$)

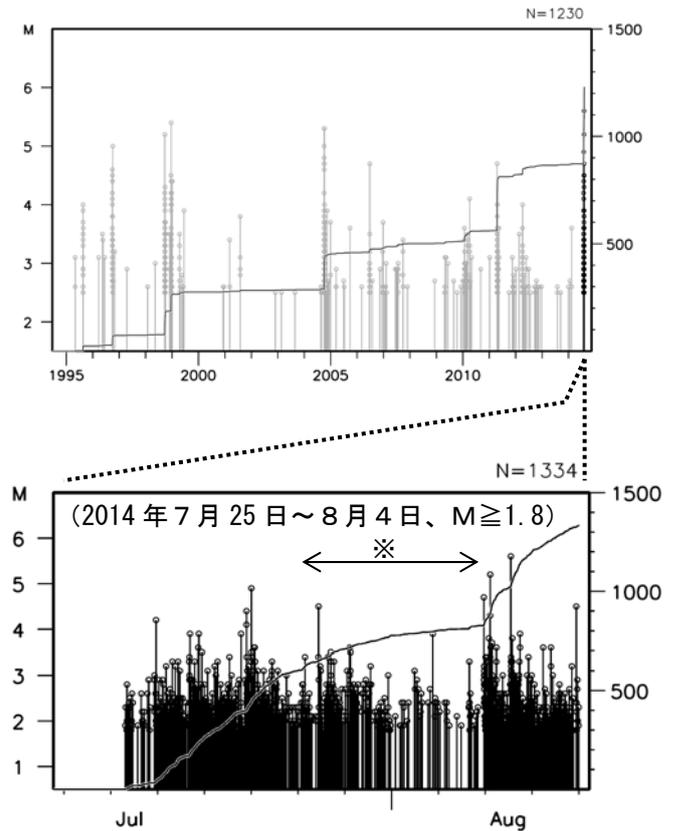


2014年7月26日07時頃から、奄美大島北西沖（奄美大島の西約100km）で地震活動が活発となり、震度1以上を観測した地震が8回発生した（8月7日現在、最大震度3：1回、最大震度2：3回、最大震度1：4回）。この活動は陸のプレート内で発生した。このうち最大規模の地震は、8月3日13時06分に発生したM5.6の地震（深さ13km、最大震度3）である。7月29日に発生したM4.9、8月3日に発生したM5.2、M5.6の地震の発震機構（CMT解）は、南北方向から北西-南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

1994年10月以降の活動を見ると、今回の地震活動の付近（領域a）では、数年に一度M5クラスを最大とするまとまった活動がある。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震活動の周辺（領域b）では、M6.0以上の地震が3回発生している。

領域a内のM-T図及び回数積算図



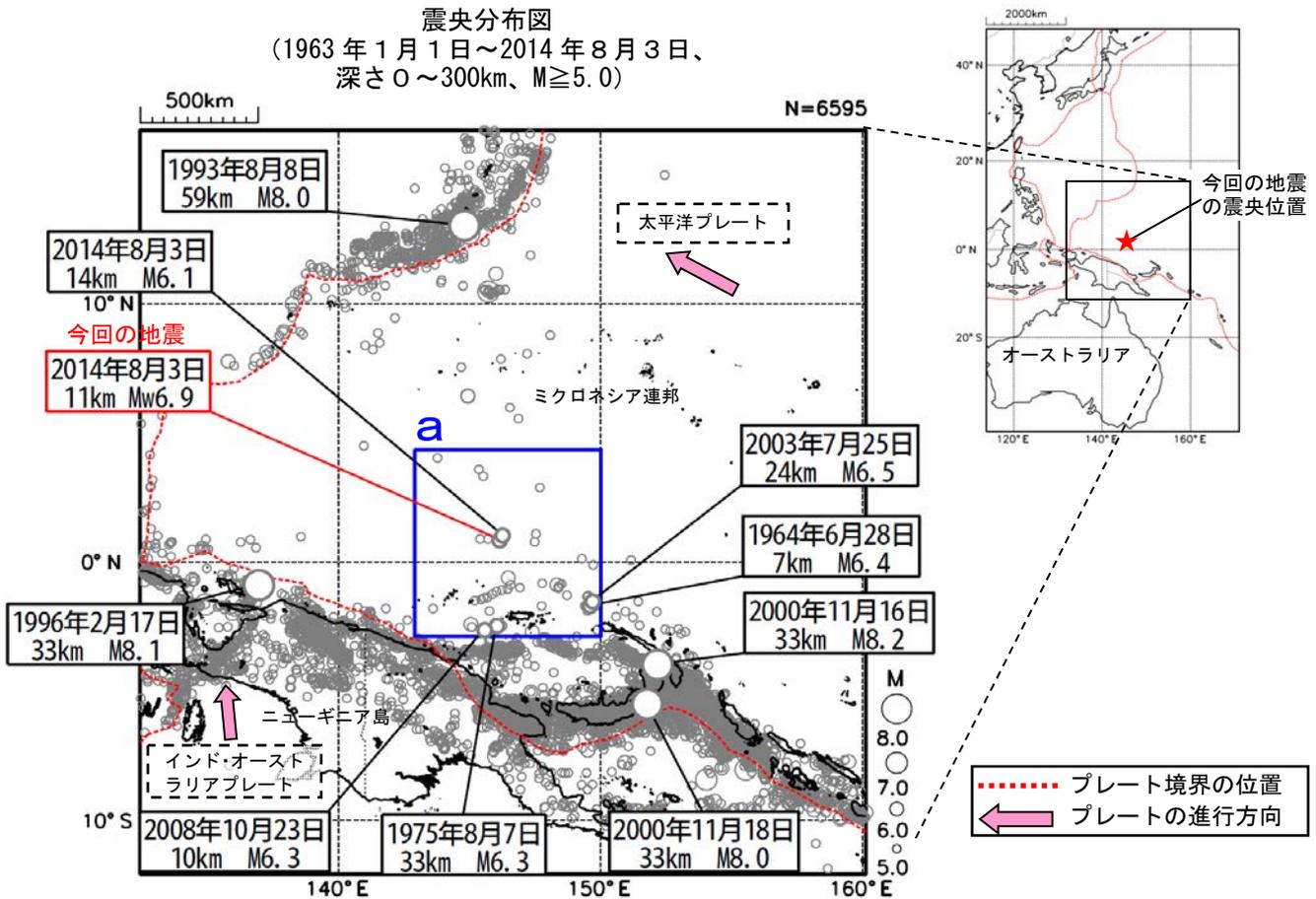
※7月30日から8月2日にかけて台風の影響で地震の検知能力が低下している。

8月3日 ミクロネシア連邦の地震

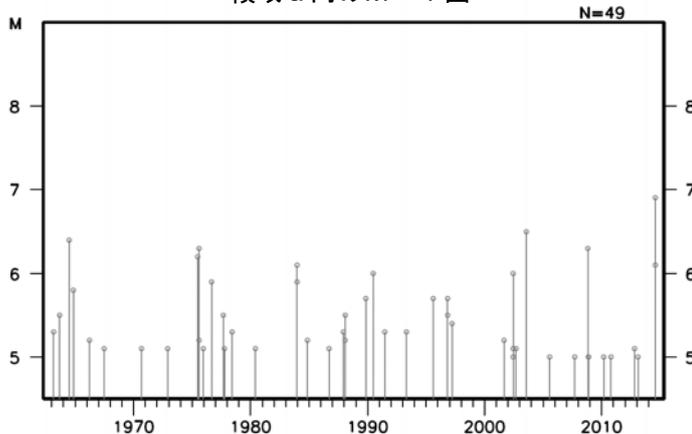
2014年8月3日09時22分(日本時間、以下同じ)に、ミクロネシア連邦(ニューギニア島の北方)の深さ11kmでMw6.9の地震が発生した。この地震は、発震機構(気象庁によるCMT解)が、北北東-南南西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型で、太平洋プレート内で発生した。また、同日09時26分に、今回の地震の震源の近くでM6.1の地震が発生した。

気象庁は、今回の地震により、同日10時12分に遠地地震に関する情報(日本国内向け、「震源の近傍で津波発生可能性があります。日本への津波の有無については現在調査中です。」)を、また、同日11時30分に同情報(日本国内向け、「この地震による日本への津波の影響はありません。」)を発表した。

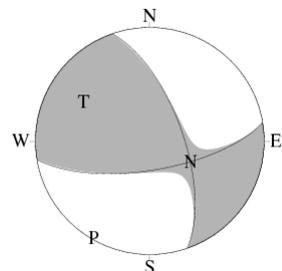
1963年1月以降の地震活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域a)ではM6クラスの地震が時々発生している。



領域a内のM-T図



今回の地震の発震機構
(気象庁によるCMT解)



※本資料中、今回の地震の発震機構とMwは気象庁による。その他の地震の震源要素は、米国地質調査所(USGS)による。プレート境界の位置と進行方向はBird(2003)*より引用。

*参考文献

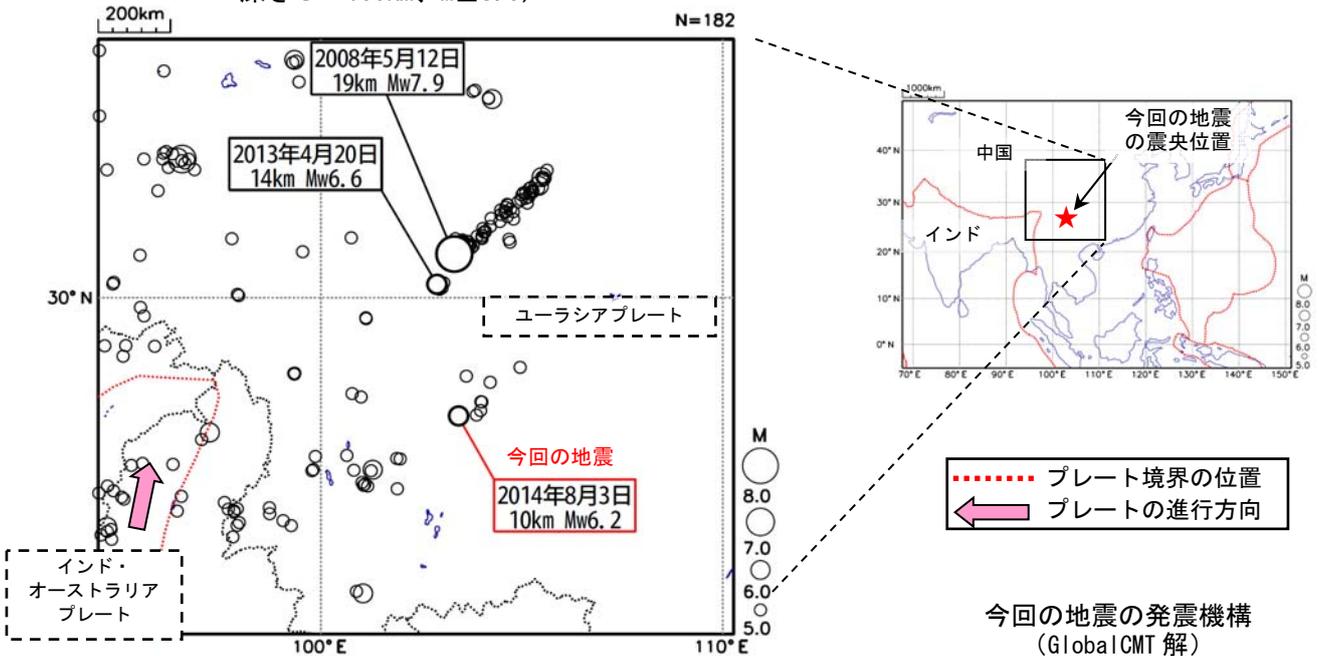
Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

8月3日 中国、雲南省の地震

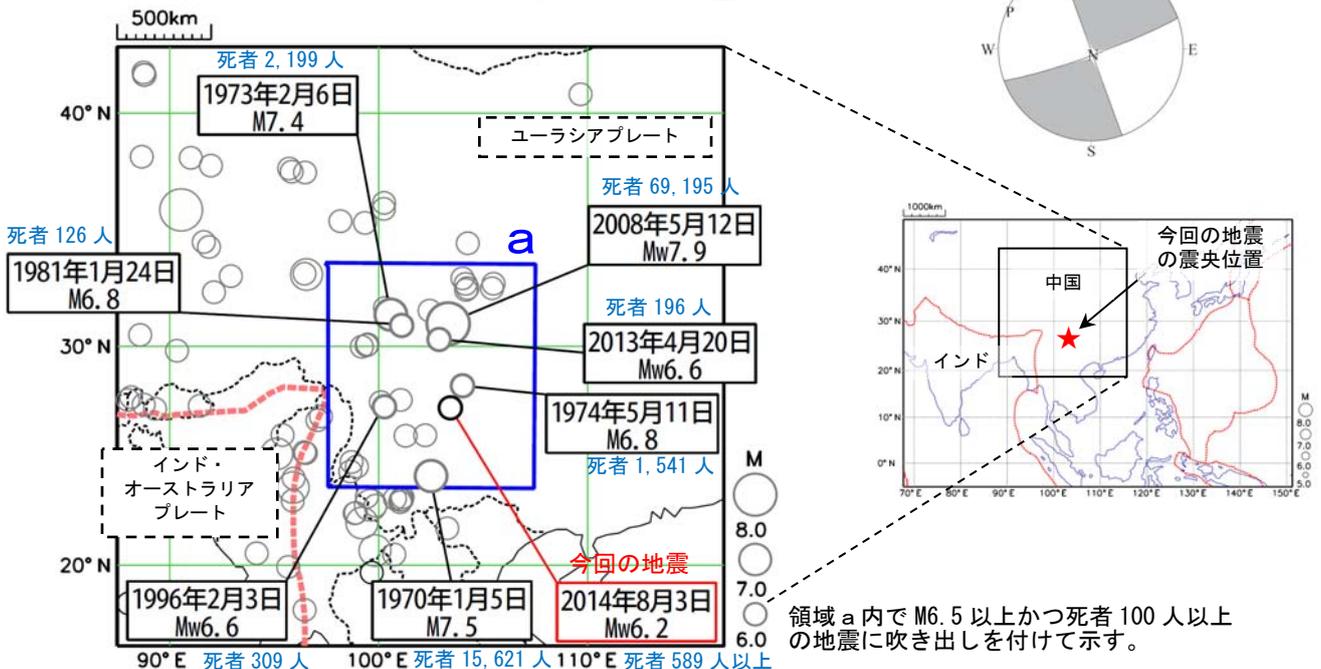
2014年8月3日17時30分（日本時間、以下同じ）、中国、雲南省の深さ10kmでMw6.2の地震が発生した。この地震は、ユーラシアプレートの地殻内で発生した。発震機構は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震により、死者589人、行方不明9人、負傷者2401人の被害を生じた（2014年8月6日10時30分現在、新華社通信による）。

今回の地震の北方では、2008年5月12日に四川省で発生したMw7.9の地震により、死者69,195などの被害を生じた。1963年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央の周辺では、死者100人以上の被害を伴う地震が時々発生している。今回の地震の西方では、インド・オーストラリアプレートがユーラシアプレートに衝突しており、青海省から四川省、雲南省にかけて、規模の大きな地震が発生している。

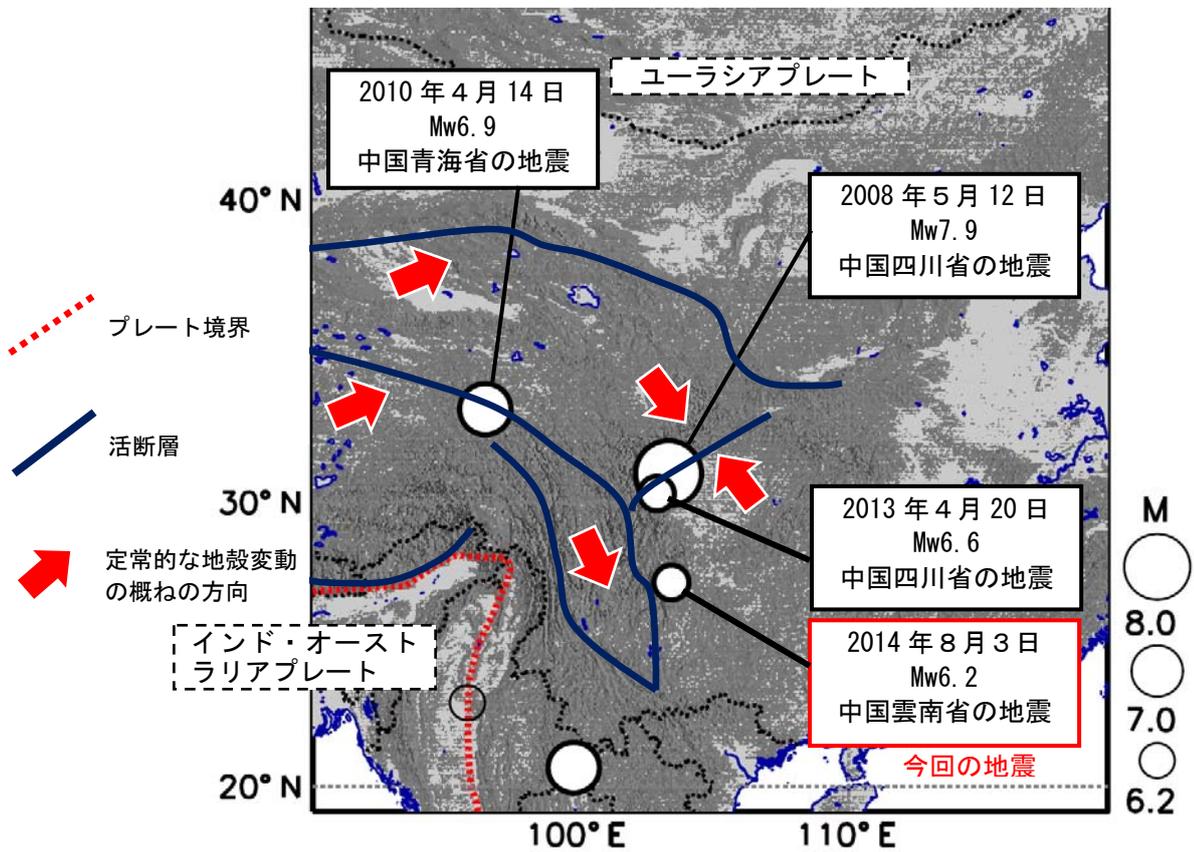
震央分布図
(2000年1月1日～2014年8月3日、
深さ0～100km、M≥5.0)



震央分布図
(1963年1月1日～2014年8月3日、深さ0～100km、M≥6.0)



本資料中、発震機構 (CMT 解) と Mw は GlobalCMT による。その他の地震の震源要素は米国地質調査所 (USGS) による。プレート境界の位置と進行方向は Bird (2003) より引用。今回の地震の被害 (死者数) は国営新華社通信による、2013年4月20日の地震による被害 (死者数) は中国地震局による、その他の地震による被害 (死者数) は「宇津の世界の被害地震の表」による。



中国四川省・雲南省周辺のテクトニクス※

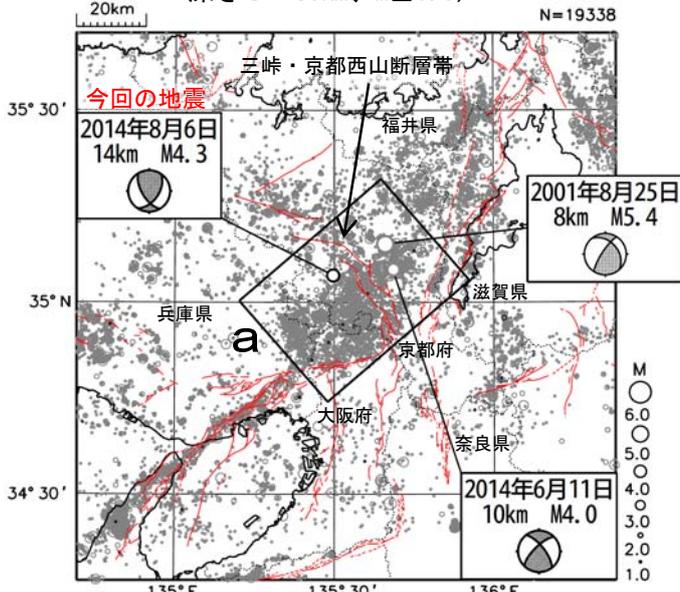
※ 2010年4月14日の青海省の地震のMwは気象庁による。吹き出しの地震のMwはGlobalCMTによる。その他の震源要素は米国地質調査所（USGS）による。活断層は下記文献*1を参照

*1 参考文献：中国国家地震局「中国岩石圏動力学地図集」編集委員会編、1989、中国岩石圏動力学地図集、中国地図出版社

8月6日 京都府南部の地震

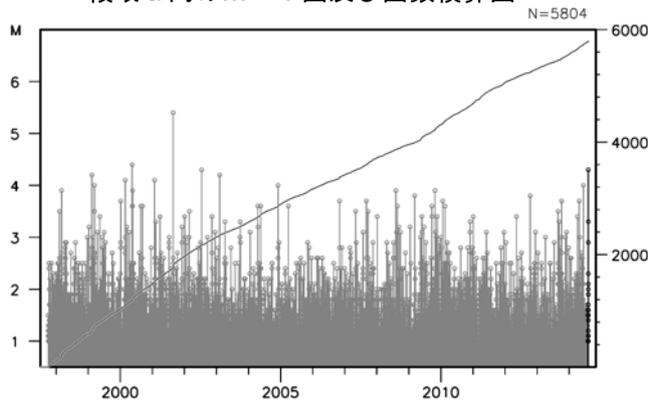
震央分布図

(1997年10月1日～2014年8月6日、
深さ0～30km、M_s≥1.0)



図中の細線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す。

領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



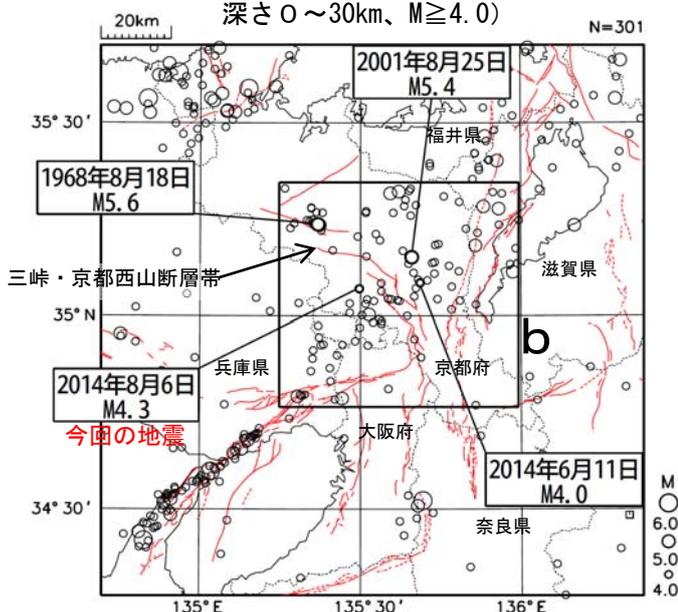
2014年8月6日01時17分に京都府南部の深さ14kmでM_s4.3の地震(最大震度4)が発生した。この地震は地殻内で発生した。今回の地震の発震機構は、東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。震度1以上を観測した余震は6日までに2回(最大震度2:1回、最大震度1:1回)発生している。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域a)は、地震活動が活発である。最近では、2014年6月11日にM_s4.0の地震(最大震度3)が発生した。また、2001年8月25日のM_s5.4の地震(最大震度4)では、負傷者1名の被害が生じた(「日本被害地震総覧」による)。

1923年1月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M_s5クラスの地震は時々発生しているが、M_s6.0以上の地震は発生していない。1968年8月18日のM_s5.6の地震(最大震度4)では、住家半壊1棟、道路の亀裂などの被害を生じた(「日本被害地震総覧」による)。

震央分布図

(1923年1月1日～2014年8月6日、
深さ0～30km、M_s≥4.0)



図中の細線は、地震調査研究推進本部による主要活断層帯を示す。

領域 b 内の M-T 図

